

教育実習より学んだ学校教育における最重要事項

[市立 O 中学校 国語] 氏名：K. M

教育実習を通して「授業をしてこそ教師」という言葉の意味を捉えなおすことができた。このことから、学校教育において最も重要であると私が考えることは、教師の生徒理解である。実習以前の私は、生徒がわかる授業にするためには教材研究に力を入れるべきであると考えていた。そのため、「授業をしてこそ教師」という言葉を聞いたとき、子どもに教えることが教師の一番の役目なのだろうという捉え方をしていた。しかし、実際に、指導教諭にご指導いただきながら指導案を作成してみると、教材研究をしているだけでは、生徒にとってわかりやすい授業にはならず、教師の独りよがりな授業になってしまうということに気が付いた。そして、指導教諭の「このクラスは男子の集中力が問題」「～君なら何て答えそうかな」「～さんと～さんしか答えられないと思う」などという言葉に、各学級や生徒の学力レベルや関心、意欲、様子をといった一人ひとりのことを思い浮かべながら指導案を作成する必要があるのだということに気付かされた。生徒との距離感もまだつかめていない1週目は、先生方の授業を見学したり、先生方よりご提案いただいたりした生徒の様子をもとに指導案を作成し、2週目の初回の授業に臨んだ。実習先の中学校の生徒たちは、教師に対して感情や思いを話すことを苦手と感じている、シャイな生徒が多かった。そのため、授業や日常生活を観察していても、学力レベルや友人関係は見てくるものの、関心や意欲は見えづらいという状況にあった。そこで私は、授業毎にワークシートを作成し、生徒がそこに記入したものを全てチェックし、学力レベルや思考力を見るとともに、ワークシート上には自由欄を設け、そこに書かれている内容に対して返事をするということを繰り返した。すると、直接は話しかけてこない生徒も、びっしりと書いてくれるようになり、私とのやり取りを楽しんでくれているようだった。この時、生徒は私がどのような人間なのか伺っていたのだということに気づき、初めの1週間は生徒に対して不安な思いをさせてしまったと反省する機会となった。ワークシートでのコミュニケーションを繰り返すことで、私も生徒の反応も予測しやすくなり、生徒一人ひとりのことを考えながら授業を作ることができるようになった。同時に、授業をすることが楽しくなっていた。授業を重ねるうちに、生徒から話しかけてきてくれることも多くなった。他のクラスでの授業後、私のクラスの生徒が来て、「先生最後急いでしたしょう。先生の字じゃないみたい」「先生1組じゃなくて毎回4組で授業してよ」と言ってくれたり、私が歯磨きをしている場所まで毎日来て「先生またいた」と話しかけてくれたり、それぞれの生徒が私を受け入れようとしてくれたことがうれしかった。また、中学生という年代は、もちろん精神的に幼い部分もあるが、大人な部分もたくさん持っているのだということも学んだ。また、教師が小さな変化をつけることで、中学生はできるようになったり、できなくなったりする

ということを学んだ。しかし、生徒が表現してくれたものを理解することだけが生徒理解ではない。実習先では、生徒の持ち物が切り刻まれる、持ち物が隠されるといった事例が発生しており、私の担当したクラスの生徒二人が被害にあっていた。日頃から2人の生徒と話す機会はあったものの、私の目では、表情や態度、様子からはそのような被害にあっている生徒には見えなかった。クラスで見せる表情は明るい笑顔が多かったし、私に対して明るく接してくれる生徒だったからである。彼女たちがそのような状況に置かれているということに私は大きな衝撃を受け、気付けなかった自分の弱さを実感するとともに、中学生を完全に理解することの難しさを感じる機会となった。さらに、学年集会で、その2人の生徒の肩が小さく震えるのを見た時、悔しく、教師としてこのような思いをする生徒を出してはいけないという気持ちになった。生徒一人ひとりの学力レベルや関心、意欲、様子といった目に見えるものだけでなく、生徒が表に出さない感情を理解することが生徒理解であり、そのような状況にいる生徒の感情に寄り添ってこそ教師なのである。生徒にとってわかりやすい授業をするためにも、生徒のそのような部分までを理解する必要がある。実習先の先生方は生徒の、表に出さない感情や思いを理解し、授業を進めていた。そのため、先生方の授業には安心感があり、生徒も先生方を信頼し、のびのびと授業を受けていた。教育実習におけるこれらの経験により、「授業ができてこそ教師」という言葉は、生徒を理解できて初めて良い授業はできるのだから、教師はより良い授業を作るためにも生徒理解に力を入れるべきである、という意味であると捉えることができるようになった。よって、私が学校教育において最も重要であると考えすることは、教師が生徒を理解することである。